

September 6, 2026

聖霊によるビジョン

ヨエル 2:28-29

2:28 その後、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、老人は夢を見、青年は幻を見る。

2:29 その日わたしは、男奴隷にも女奴隷にも、わたしの霊を注ぐ。

一、いなごの災害

さて、ヨエル書といえば「いなご」です。ヨエル1章には「いなご」の大群がユダを襲ったことが書かれています。サイクロンなどの大雨によって東アフリカの砂漠に草木が増え、
「サバクトビバッタ」が爆発的に繁殖し数千万から数億匹の大きな群れになります。この種のバッタは小さな群れでも数キロメートルの地表を覆い尽くします。このバッタはじつに食欲が旺盛で一日に自分の体重（約2グラム）と同じ量の作物を消費します。しかも、移動の途中でも卵を産み、幼虫が成長し、植物を食い散らす成虫に姿を変えて増え広がっていきます。ヨエル1:4には、バッタが変態していく様子が書かれています。

「噛みいなごが残した物は、いなごが食い、いなごが残した物は、バッタが食い、バッタが残した物は、その若虫が食った。」卵から始まって、若虫、バッタ、いなご、そして噛みいなごへと姿を変え作物を食い荒らすのです。この群れがやってくると一日に何万人分もの食料が食い尽くされ、それが通ったあとは、木の樹皮はみな食われて白い枝だけが残し、緑のものは何もかもなくなり、地表は無惨な姿をさらすようになります。このバッタの大群はときおり、風に乗ってアフリカから紅

海を越え中東地方やインドにまでも飛んでいきます。ユダの国もそれに襲われることがありました。

ヨエルは、バッタがユダを襲い、そのため飢饉が起こることを預言しました。そして、それが神からの警告であると告げ、こう呼びかけました。「衣ではなく、あなたがたの心を引き裂け。あなたがたの神、主に立ち返れ。主は情け深く、あわれみ深い。怒るのに遅く、恵み豊かで、わざわざいを思い直してくださる。」(2:13) 主なる神は、好んで人々をさばかれるお方ではありません。主は「情け深く、あわれみ深く、怒るのに遅く、恵み豊か」なお方です。「衣ではなく、あなたがたの心を引き裂け」とあるように形式的、表面的な悔い改めではなく、まごころからの悔い改めをもって祈るなら、神はさばきに代えて救いを与えてくださるのです。実際、神はバッタの群れを追いやり、被害を最小限にとどめ、ユダの人々が飢饉で苦しむことがないようにされました。

神は私たちの人生に襲ってくる「バッタの群れ」も追い払ってくださいます。私たちの生活にはバッタが1匹、2匹いて私たちが煩わせます。1匹、2匹ならまだなんとかなるでしょうが、大群が襲ってきたらたまったものではありません。けれども神はそれらを追い払い、取り除いてくださいます。身の回りの出来事に振り回されないで、そうしたことの背後にある神のみこころを、御言葉によって悟り知りしたいと思います。神が与えられる警告は愛の警告ですから、御言葉に従って、より一層主に信頼したいと思います。

二、イエスによる成就

ヨエルは、さらに預言を続けました。聖書では、バッタの群れ

は、しばしば、軍隊に喩えられます。実際の軍隊がバッタの群れとして描かれることがあるのです。たとえ、外国の軍隊がバッタの大群のようにユダとエルサレムを襲い、それを荒らすようなことがあっても、神は、再び、ユダとエルサレムを回復してくださると預言しました。その預言の通り、ユダとエルサレムはバビロンによって滅ぼされました。しかし神は、バビロンに捕らえられていった人々がユダヤに帰ってきて、民が回復することも預言されました。けれども、神が望んでおられた回復は、ユダヤの人々がたんに政治的に力を持ち、経済的に栄えることではなく、ほんものの神の民となることでした。「あなたがたは、イスラエルの真ん中にわたしがいることを知り、わたしがあなたがたの神、主であり、ほかにはいないことを知る。私の民は永遠に恥を見ることはない」（2:27）とあるように、神と人とが一つになること、それが本物の回復、霊的な復興です。それは、救い主によって実現します。救い主を信じる者は、神の民とされ、神はその人の神となられるのです。

この預言は救い主イエスが来られる7百年、あるいは8百年前の預言です。さばきや救いのみわざをなさる前に、神は常にそのことを予告しておられました。それによって、起こった出来事がたまたまそうなったのではなく、天地を創造し、それを治め、また、国々を動かし、歴史を導いておられる主なる神のご計画にそってなされたことが分かるためです。救い主が世に来られることは、預言の中で最も重要なことですから、救い主のことは聖書に詳しく預言されています。イエスはそれらの預言をすべて成就されました。イエスがなさったことと預言とを照らし合わせると、確かに、イエスが救い主キリストであることが分かります。じつに、立法と「預言者たちの書」はイエス

とイエスによる救いを証しするものなのです（ルカ 24:44、ヨハネ 1:45、ローマ 3:21）。

きょうの箇所、「その後、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、老人は夢を見、青年は幻を見る。その日わたしは、男奴隷にも女奴隷にも、わたしの霊を注ぐ」（2:28-29）との預言は、イエスによって実現しました。それが成就したのは、イエスが地上に来られ、十字架と復活ののち、天にお帰りになってから 10 日目、120 人の弟子たちに聖霊を注がれたときでした。その様子を見聞きした人の中には「彼らは新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言う人もいました。そこでペテロは「今は朝の九時ですから、この人たちは、あなたがたが思っているように酔っているではありません。これは、預言者ヨエルによって語られたことです」（使徒 2:15）と言って、ヨエル 2:28-32 を引用しました。新約の言葉では次のようになっています。「神は言われる。終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。その日わたしは、わたしのしもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。すると彼らは預言する。また、わたしは上は天に不思議を、下は地にしるしを現れさせる。それは血と火と立ち上る煙。主の大いなる輝かしい日が来る前に、太陽は闇に、月は血に変わる。しかし、主の御名を呼び求める者はみな救われる。」（使徒 2:17-21）

よみがえられて天におられるイエスが弟子たちに聖霊を与えられた。それこそ、イエスが聖書に預言されていた救い主であることの証拠です。ヨエルが「主の御名を呼び求める者はみな救われる」と言っているように、悔い改めて、イエスを信じる

なら、ヨエルが預言したとおり、聖霊を受け、聖霊によってその人は神のものとされ、神はその人の神となってくださいのです。救いの預言はイエスが成就されました。イエスを信じる者は救いの実である聖霊をいただいているのです。旧約のヨエル書にそのことの預言が、新約の使徒の働きにその成就が書かれているのです。

三、預言と夢と幻

そして、聖霊を受けている者は、聖霊によって預言と夢と幻をもいただいています。「老人は夢を見、青年は幻を見る」とありますが、日本語では、「夢」や「幻」というと、とらえどころのないもの、儚（はかな）いもののことを言います。室町時代に始まった幸若舞（こうわかまい）の一つに「敦盛」（あつもり）というのがあります。これは当時 16 歳の平敦盛（たいらのあつもり）が源氏の熊谷直実（くまがいなおざね）に討ち取られたことを題材にしたものです。その中に「人間五十年、下天（化天）のうちをくらぶれば、夢幻の如くなり」という一節があります。織田信長が好んで歌ったものです。人生 50 年は天の悠久の時間にくれればなんと儚いことかというものです。

しかし、聖書の「夢」や「幻」はもっと確かなもの、神からの啓示を表します。「あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る」とあって、「預言」と「幻」と「夢」が並んでいます。夢や幻は、預言、つまり神の言葉に基づいたものなのです。ヨセフは夢で啓示を受け、それによってエジプトの宰相にまでなりました。兄たちはヨセフを嫌って、「見ろ。あの夢見る者がやって来た」（創世記 37:19）と言っ

て、ヨセフを痛めつけ、エジプトに奴隷として売り飛ばしました。ヨセフは「夢見る者」でした。しかし、彼の夢はぼんやりとしたものではありませんでした。彼はそれによって神のみこころを悟り、それに従ったからこそ、数々の苦難を乗り越えて、自分を苦しめた兄たちを赦し、一族を救う者となれたのです。

「幻」も神からの啓示です。預言者たちに示された預言は「幻」と呼ばれます。イザヤ 1:1 には、「アモツの子イザヤの幻。これは彼がユダとエルサレムについて、ユダの王ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代に見たものである」とあります。「預言」なら「聞いた」と言ったほうがよかったのかもしれませんが、イザヤは「見た」と言っています。彼が見たものは、幻想でも幻影でもなく、はっきりとした神の救いのご計画でした。神が計画されたイエス・キリストによる救いの設計図や工程表のようなものをはっきりと見て、心に焼き付け、それを文字に記したのです。

「幻」は、一般には「ビジョン」と言われます。どの企業、組織でも「ビジョン」を持っていなければなりません。それがあやふやな企業は業績をあげることができず、組織は機能しなくなります。箴言 29:18 に「幻がなければ、民は好き勝手にふるまう。／しかし、みおしえを守る者は幸いである」とあります。これは KJV では “Where there is no vision, the people perish.” と訳されていました。「幻なき民は滅びる」といわれてきました。

こうした「ビジョン」は企業や組織だけのものではありません。私たち一人ひとりも自分の人生の「ビジョン」を持っていると思います。しかし、それは、自分の願いや計画だけで

あつてはならないと思います。ほんとうのビジョンは神から来ます。預言者に幻を見せてくださった聖霊は私たちにも働いて、一人ひとりに確かなビジョンを与えてくださいます。

それはいつも積極的なものです。神の言葉は、私たちの過去を責めるだけのものではなく、将来を与えるものです。わざわざではなく幸いを約束するものです。エレミヤが「わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている——主のことば——。それはわざわざではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ」（エレミヤ 29:11）と書いているように、私たちに希望を与えるものです。

「夢」や「幻」は青年だけのものではありません。聖書が「老人は夢を見る」と言っているように、それらは年齢には関係ありません。また「息子や娘は預言し」とあるように性別にも関係ありません。さらに「その日わたしは、男奴隷にも女奴隷にも、わたしの霊を注ぐ」と言われているように社会的ステータスにも関係ありません。実際、ペテンテコステに聖霊を受けた 120 人の弟子たちには年老いた人も若い人も、男性も女性もいて、それぞれに社会的ステータスは違っていました。しかし、そのすべてが聖霊に満たされたのです。そして聖霊によって与えられたビジョンに従って歩み、キリストを証しする者となりました。私たちも聖霊による確かなビジョンを与えられ日々を歩みたいと願います。

（祈り）

父なる神さま、あなたはご自身の約束に忠実で、預言の言葉を決して違えず、それらを成就してくださいました。私たちも

それに答えてあなたの言葉を守ります。私たちの人生のうちに御言葉が成就していくのを見る幸いを与えてください。イエス・キリストのお名前です。